

農業と科学

1976

1

CHISSO-ASAHI FERTILIZER CO LTD

使命感を自覚しつつ

細心な注意と適切な対応を……

チ ョ ッ ソ 旭 肥 料 株 式 会 社
企 画 部 長 中 川 岩 男

新年おめでとうございます。新しい年を迎えるに当り一言ご挨拶申し上げます。

世界の政治経済の動きは、48年の石油ショックを契機として、それ以前とは全く変わってしまいました。本年もいましばらくその後遺症に悩むことになりそうです。

何といっても、一番大きく変わったのは各種資源に対する考え方です。従来無限と考えられていた各種資源が有限であり、全人類の必要を充すためには、むしろ不足だと考えられるようになって来ました。吾国は殆んど全ての資源を海外からの輸入に頼って高度成長を遂げて来た訳ですが、新しい状況は、この行き方に重大な反省をせまっています。

中でも最も重要でありながら、それほど一般には注意を払われていない問題に、食料および農業の問題があります。仮りに石油ショックほどでないにしても、食料需給に大変動が起ったとしたら、日本はどのようにして切り抜けて行けるのでしょうか。

本誌昨年1月号に農林省農事試験場長の川井先生が、高度成長と農業の衰退の矛盾を見直す必要性を、「将来の展望の上に立って農業の新しい意義を見いだせ」と提唱されておられます。

殊に、「農業者に『やる気』と、『生きがい』を起させる対策が最も大切である」という指摘は、全く同感する次第です。この言葉はわれわれ肥料その他各種農業資材の生産に当たっているものにも等しくいわねばならないと思います。日本の1億1千万人の食料をさまえているという使命感が必要だと思ふのです。

しかし、使命感だけでは限度があることはいうまでもありません。経済性を無視することは出来ません。殊に先にも述べましたようにわが国は資源の殆んど全てを輸

入に依存しております。このことは肥料の原料についてもその通りなのです。窒素、リン酸、加里—どれ一つをとって見ても、第一次原料は海外から輸入されています。つまり食料の自給確立に重要な要件の一つである肥料の生産は、海外の肥料原料の経済的な動きに大きく影響され、それを無視する訳には行かなくなって来ているのです。

アンモニア、リン酸等が具体的な例として挙げられます。アンモニアについては、天然ガス、リン酸については、燐鉱石という資源を保有する国々の動きが鍵を握っていますが、石油の場合のように、国際カルテルを結成し、粗原料の輸出から、一次加工品の生産、輸出へと計画を進めて来ています。

粗原料を比較的高価にして、一次加工品を比較的低価にするという手段がとられるケースがあります。このようなケースでは、消費国にあるアンモニア工業、リン酸工業等の産業は、致命的な打撃を受けることになりかねません。

食料の供給ほど直接的ではないにしても、肥料の供給も、一般に考えられているよりも不安定な基盤の上に乗っていることを自覚し、われわれは肥料メーカーとしての責任を果すために、世界的な動きに細心の注意を払い適切な対応をして行かねばならないと思っています。

以上のような状況を踏まえて、私達チヨソ旭肥料(株)では、今年も全力を挙げて「良質で安価な肥料を安定的に供給するには、どうしたらよいか」という課題と取組んで行きたいと思っています。何卒よろしくご指導をお願いする次第です。

最後に、皆様のご多幸とご繁栄をお祈りして新年のご挨拶と致します。